

平成 25 年度岡崎市食育推進会議 会議録

開催日時 平成 26 年 2 月 25 日（火） 午後 1 時 30 分～2 時 30 分

開催場所 岡崎市役所東庁舎 2 階会議室

出席及び欠席者 出席 22 名 欠席 6 名 オブザーバー 3 名（別紙名簿のとおり）

事務局 片岡博喜（保健所長）、鈴木司朗（保健部次長兼保健総務課長）

大島雄二（生活衛生課長）、近藤徳子（生活衛生課副主幹）、

長谷川昌世（生活衛生課主任主査）、川合弘晃（生活衛生課主査）

傍聴者 なし

会議次第

1 挨拶

2 議事

(1) 「おかざき食育だより」について

(2) 平成 25 年度の食育推進事業について

(3) 平成 26 年度事業計画(案)について

3 その他

〔会議資料〕

岡崎市食育推進会議委員名簿、配席図

資料 1 「おかざき食育だより」：2013 年春号～2014 年冬号

資料 2 各課における食育の取組状況及び事業計画(案)

資料 3 平成 26 年度の各施策における重要事項の事業計画（案）

参考資料 1 岡崎市食育推進会議条例

参考資料 2 第 2 次岡崎市食育推進計画【概要版】

議事要旨

1 挨拶（寺田副市長）

本日は、皆様方には御多忙の中、岡崎市食育推進会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、日頃は市政運営にあたりましていろいろな場面で皆様方にはご協力を賜っております。この場をかりまして厚くお礼を申し上げます。

近年、社会経済状況を取り巻く環境がめまぐるしく変化するなか、市民のライフスタイルや価値観・ニーズが多様化しまして、私たちの食生活も大きく変化しているところであります。日々忙しい生活を送る中、食の大切さに対する意識が希薄となり、健全な食生活が失われつつあります。また、食品の安全性や食糧自給率の低下といった問題も、私たちの生活に大きな不安を与えているところです。このような状況の中、平成 17 年 4 月に食育基本法が施行され、平成 18 年 3 月には国の食育推進基本計画が策定されました。

本市におきましても、食育に関する総合的な施策を推進するために、平成20年3月に岡崎市食育推進計画を策定いたしました。その後、平成23年、国の「第2次食育推進基本計画」の趣旨をふまえ、本市において更なる食育を推進するため、平成24年3月に、「第2次岡崎市食育推進計画」を策定いたしました。第2次計画では、「周知から実践」をコンセプトに、皆様のご協力をいただきながら、より深化した、全市的な食育推進を行ってまいりたいと考えている次第です。

「食」は健康にそして豊かな暮らしをしていくための基本であります。

本日は皆様のご貴重なお時間を拝借いたしまして、今後の食育事業につきまして、活発なご意見、ご協議を賜りますことをお願い申しあげまして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 議事

(1) 「おかざき食育だより」について
事務局より報告（資料1）

[質疑・応答等]

(委員)

私立幼稚園という関係で数部いただいているが、とても内容として見やすく、裏表だけなのでありがたい。今現在、義務教育の小中学生対象ということだが、「秋号」の食事のマナー、姿勢、箸の持ち方等は、ルビもあってあり幼稚園児からでも良いと思うので、できたら小学校に上がる前の幼稚園・保育園の年長児に向けて配布部数を増やしてほしい。

(事務局)

今年度から幼稚園・保育園に配布する形を取らせていただいたので、皆様の反響がまだわからず、幼稚園児には早いかなと思いながら試験的に配布させていただきました。今の話を聞いて嬉しく思う。ぜひ多数配布できるよう努力していきたいが、予算の都合もあり、御希望の数を印刷できるかどうかわからない。代わりに、ホームページや電子媒体で提供させていただくことは可能であると考えてるので、足りない分は園で印刷していただけるとありがたい。そういったことも併せて検討させていただきたい。

(委員)

小学校に上がる前の子どもは文字も読み始めている。これは絵も多く読みやすいので、親だけでなく子どもが一生懸命読んで、小学校に行くところな給食があるのだなというところで、年長児に向けて努力していただけたらと思う。

(議長)

事務局は御意向に沿った形でよろしくお願いいたします。

(委員)

箸の持ち方に関してだが、鉛筆の使い方そのものに非常に個性がある人が多い中で、正しい持ち方を誰が指導しているのか教育長にお聞きしたい。鉛筆さ

え上手に持てない子に箸が持てるかということと、ここから話が進んでいくと思うが、和食の良さは医師・医療に携わる者にとっては非常に大事な要素であり、そのためには箸は大事なツールになってくると思う。小学校・中学校の子どもたちとそれを見ている保護者たちがいかに箸をちゃんと正しく理解して持っているかが大事になってくる。まして小学校に上がる前の年長児がそれをしていないと一番の原点ができていないことになり、十分生かされない。そのあたりについていかがお考えか。

(委員)

基本的には鉛筆の持ち方も箸の持ち方も家庭教育の一環だと思うが、今それが十分されていない。鉛筆の持ち方については岡崎市の小学校・中学校には教室掲示をして小学校1年生入学時に岡崎市で作っている持ちやすい鉛筆を配布して鉛筆の持ち方の指導を行っている。箸の持ち方の指導は一斉には行っておらず、気をつく範囲でやっている。生まれてから小学校に入るまでに子どもたちはすでに箸を使っているの、なかなか直すのは難しいのが現状である。教員が指導できるようにしていきたいと思っているが、教員でも誤った持ち方の人がいるので、なかなか現実的には難しい。基本的には家庭でと思っている。

(委員)

幼稚園としては、入園を希望した方への入園前の親子講座の時に、箸の持ち方そのものが鉛筆の持ち方なので、母親が一番の財産として子どもに伝えるのが箸の持ち方であるとして、図を見せながら取り組んでいる。両親、おじいさんやおばあさんが箸を使っている生活であれば、実際2歳ぐらいからそれを見てそっくりにまねをする。家族がきちんと箸を正しく持って使っている子どもは、2歳か2歳半ぐらいから上手に使っている。そういうことを考えると、こういう食育のプリントはできるだけ早い段階で母親に配布することが大事であると思う。家庭での正しい箸を持った教育があれば、そのとおり子どももできるということを見ている。

(委員)

少なくとも家庭でいろいろな機会を通じて、保護者が正しい知識のもとに、食育に限らず全てのものについて、社会環境の中において何が正しいかということ、自分の物差しではなく社会の中における正しい考え方のもとに物事を進めていかないと、間違った感じで進んでいってしまうのではないかという気がする。たまたま箸の話が出たので箸で話をさせてもらったが、全てにおいて、教育委員会というよりむしろ子ども部等が担当になるかも知れないが、小さい頃、意思が出てくる頃からそういう形の教育・指導をしていく必要がある。そういう意味で、幼稚園や保育園における保護者への指導を、食育を通じてやっていくのがいいのではないかと思う。要望ということでお願いします。

- (2)平成 25 年度の食育推進事業について
 - (3)平成 26 年度事業計画(案)について
- 事務局より報告 (資料 2 資料 3)

[質疑・応答等]

(委員)

緑丘学区の代表だが、資料 2 の 4-1 「食と環境」の農務課のところで、平成 24 年度実績④に緑丘小学校 5 年 100 人とあり、これは出前講座ではないかと思うが、学校側から依頼されたものなのか。

(事務局)

農務課の職員が他の会議で欠席しているので、確認をして後日回答をさせていただきます。

(委員)

自分の子どもがちょうどこの年の 5 年生だったのだが、出前講座の実施を後から聞いたので、できれば親である我々も参加したかったという意見でお聞きした。後日回答をお願いします。

(委員)

出前講座は基本的には学校が要請している。もしそのような要望があれば、学校というか、校長に言っていただければ全家庭に連絡がいくのではと思う。

(委員)

開催を知らず、過ぎてしまった後だったのでもったいなかった。

(委員)

基本的には出前講座は子どもを対象にしている。

(委員)

実際には食事をつくるのも買ってくるのも母親であるので、地産地消で言えば、親も混ざったほうが有効的ではないかという思いがある。

(委員)

事業計画等を見せてもらって、食育というのはヘルスプロモーションの一環だと感じる。自律的な健康づくりの観点では非常によくできた計画だと思う。ただ、現在の子どもたちを見ていると、私の子どももそうだが、いわゆる味覚が崩壊している。それと料理に関して素材から料理することができない。子どもたちの箸の使い方の問題もそうだが、そういう観点から言えばこういう事業は非常に効果があるのだろうが、未来を支える子どもたち、そしてその子どもたちがすでに食育、食生活の部分が半分壊れている。子どもたちがまたどんどん壊れていくのではないかと非常に心配をしている。この部分で、私が職業的にも重要だと感じるのが、母子の子育て支援との連携、そして学校教育との連携、これが実際一番大事なのではないかと思う。いわゆる核家族で食事の楽しみを知らない子どもたちが増えている。事業の中にも「共食」という部分が入っている。実際、欧米では味覚破壊が問題になっていて、日本では取り組み

が薄い、いわゆる味覚教育、味覚食教育というものがある。甘い物や塩辛い物は生命維持に必要な味覚なので、放っておいても好きになるが、苦いとか渋いとかの味覚はある程度小さい頃から与えてあげないと身についていかない。世の中にいろいろなレトルトのものやジャンクフードがあふれているので、当然油ものや辛い物が多く、そういうところから味覚が壊れていく。それを補う教育をしていく等の取り組みが大切ではないか。例えば私たちの部門で、虫歯予防に関して、昔は「歯磨きをしよう」いわゆるプラークコントロールで、そういうことが大事だと言っていたが、最近では砂糖、シュガーコントロール、これは食育に関わってくると思うが、おやつや食べ物をきちんと管理してやることの方が大事ではないかという話も出てきている。そういう観点からの取り組みも考えていただきたいと思う。

(議長)

ご意見として承らせていただく。

(委員)

26年度の各施策における重点事項の事業計画(案)について、26年度もしっかりした計画を持たれている。私どもも協力させていただくわけだが、先ほど概要版の最終ページに平成28年の数値目標が掲載されているが、これに対して事務局として、それぞれ毎年把握されていると思うが、その中で何が達成に近いとか、達成したとか、何が一番計画達成に努力をしなければならない部分かといったところがわかっていればお聞きしたい。

(事務局)

数値目標に関しては、全体について調査をまだ行っていない。本年度が終わった時点でちょうど2年が過ぎ、来年度3年目を迎えることになるので、次回の食育推進会議の際にアンケートの実施について議題にあげたいと考えている。こちらの出した数値目標と、計画を作った後にいろいろなことが起きた部分もあるので、アンケートを実施して正確な数値をつかんでいきたいと思っている。従って、現時点では数値の詳細については正確に把握できていない。

(委員)

「食とコミュニケーション」に入るのか「食文化」に近いのかと思うが、「食事ができることへの感謝」という点で、我々自身が野菜や動物の命をいただいていることへの感謝というものを考えた時に、収穫祭や感謝祭のようなものは各町内で行っていると聞くが、こういうものを食育の中に入れられないか。これを実施することによって地域の人も参加できるし、幼児から大人までということになるので、「食とコミュニケーション」又は「食文化」の中に収穫祭という形で、収穫できることに感謝するような催しや働きかけを入れて欲しい。

また、「食の安全・安心」の部分に関し、先程の味覚ということで刺激を受けた。いろいろなお菓子に塩や砂糖が入っているが、塩はNaClという化学塩で海水塩は使われていない。体に悪いと言われている化学塩なのだから、言わば薬品の塩漬けである。学校給食で使われる塩や砂糖を自然の海水塩からの塩、

とうきびからの砂糖を基本的な味付けにしてほしい。海水塩からの塩はいろいろなミネラルがあり非常に体に良い。その反面、駄菓子類の塩の味付けで子供の健康管理ができるのかなという感想を持つとともに、学校給食への要望でもある。「食の安全・安心」でもう一点、残留農薬に近いが、中国大陸からPM2.5や黄砂が飛んできており、蔵王の雪もマスクを透過してしまい黒くなっている程すごい量の物質が飛散している。その点で空気公害の検査はしているが、それが農作物に降雨等によって付着するので、そういうものに対して路地栽培から入ってくる野菜等に検査ができるのか。また、同様に放射性物質も飛散していたものに関して検査する機関があるのか聞きたい。

(事務局)

残留農薬については、市内に流通する野菜等に農薬にはそれぞれ規格基準、基準値があり、適合の有無ということで収去検査、抜き取り検査を実施していて、今年度は基準値を超過したものはない。放射性物質に関しては、放射性物質自体が高濃度のものが中国大陸等から飛んで来ることはなく、日本で問題になるとすれば福島第一原発周辺に飛散した放射性物質が野菜等に付着・吸収して、そういったものが出回る危険性ということだが、今それについては生産段階でモニタリングの検査をしているので、基準を超過するようなものは基本的には出回らない体制になっている。ただ、そういった枠を潜り抜ける可能性はあるので、全国と各自治体、例えば名古屋市には大きな市場があるので中央卸売市場等を中心に流通食品、特に放射性物質の影響を大きく受けていると思われる17都県産の野菜を中心に放射性物質の検査が行われているので、基本的には皆様の口に入るものは問題ない物だと考えてよい。PM2.5の野菜等への付着に関してだが、基本的に肺に吸い込むことで健康への影響が問題になっており、野菜等は食べる前によく洗浄され利用されるので、そういった影響はほとんどないと考えられる。

(委員)

もっとも重要な点は、「食べ物に対する感謝」ということを考えれば、いただきますと言う前の、収穫できる喜びや収穫できた感謝を、料理や形に関係なく、食育の中の大きなものとして、「食とコミュニケーション」か「食文化」か位置付けが難しいかもしれないが、そういうことを呼びかけるのが大事なことはないか。どのような取り組みができるのか、他の委員の意見を含め事務局の意見を聞きたい。もう一点、学校給食を作る時に基本的な味付けにかかわる塩に関してはNaCl、食塩になってしまっているが、微量だがずっと食べ続けていくことになるので、自然の塩や砂糖を使った学校給食を提供できるかどうか、提供していこうと思っているかどうかを聞きたい。

(事務局)

食への感謝については、計画を作った時に施策の4-4「食とコミュニケーション」に入れさせていただいて考えている。食事ができることに感謝するという部分で、情操教育を含めて親子で会話をしながら食事ができることへの感

謝、料理を通しての親子の交流等ということで取り組みをしている。

(委員)

そういったことは普通であり、一番大事なのは保育園や幼稚園で行っている栽培等を小学校・中学校でも行っていくわけだが、日本の文化としてあるのは、収穫できる喜びや収穫できたことへの感謝の気持ちを表し、幼児から老人まで参加できる収穫祭・秋祭りの的なものを盛り込めないか。そういったものは各町内の秋祭りに任せてしまう形で良いのか、そういうことも岡崎市の食育推進としてきちんと捉え、それを応援する等何かアクションできるのかどうか。

(委員)

各小学校や中学校で収穫をして、収穫祭を実施している。この前も六ツ美中部小学校で収穫祭を実施した。もち米を作り収穫を感謝する行事を行うようにしているが、確実にやりなさいという指導はしていない。各町村での秋祭りは収穫に感謝する祭りが非常に多いと思う。そうしたところから啓発していけばよいとは思っている。学校教育のカリキュラムの中でなるべくそうしたことも考えていきたいと考えている。

(委員)

この食育の事業計画の中にそういう形の大切さのような、各幼稚園や保育園、各学校も含めてやっているところはやっているものを、「各団体がやっている、やって下さい」ではなく岡崎市が伝統として、日本人として、新嘗祭等の大切な事柄をきちんと承知して、取り組んでいるということを示せないか。難しいとは思いますが、そこが『食と文化』の一番の根幹に当たるのではないかと。

(議長)

新嘗祭に関しては、伝統行事であると同時に宗教的な側面もあり、宗教行事に係ることを行政として関わっていくというのは躊躇する部分もある。伝統文化ということでは、各地域でやっていただきたいと考えており、支援するとか一緒になって行っていくことは難しいという印象はある。

(委員)

資料2の取組状況で、環境教室の実績が平成24年度は年14回で、平成25年度には1回と大きく減った理由は何か。

(オブザーバー)

回数については、環境教室というのは各学校からの希望に基づいて行う市職員を派遣する出前講座のことで、学校からの要望が少なかったためにこのような回数になった。

(議長)

それでは、他に御意見が無いようなので、本日の議事(1)(2)(3)について、原案のとおり事業を取り進めていくということでご異議ございませんでしょうか。

(委員)

異議なし

(議長)

異議なしの発言をいただきましたので、原案のとおり執り進めてまいります。
これを持ちまして、議事を終了させていただきます。

—閉会—

岡崎市食育推進会議委員名簿

任期：平成25年8月24日～平成27年8月23日

【委員】

(五十音順、敬称略)

	氏名	所属・役職等	備考
1	内田 康宏	岡崎市長	会長(欠席)
2	浅岡 悦子	学区女性団体	
3	市川 文勇	岡崎市六ツ美商工会 会長	
4	伊藤 万知子	愛知産業大学 教授	
5	加藤 基	愛知学泉大学 准教授	
6	神谷 六雄	あいち三河農業協同組合 代表理事専務	
7	佐々木 公麿	愛知県私立幼稚園連盟岡崎支部 支部長	
8	柴田 直己	岡崎市PTA連絡協議会 会計	
9	小路 光子	市民公募	
10	武田 知子	岡崎市食生活改善協議会 会長	
11	波多野 吉孝	岡崎薬剤師会 会長	
12	服部 良男	岡崎商工会議所 副会頭	(欠席)
13	早川 勝博	岡崎市食品衛生協会 会長	
14	原田 俊子	あいち三河農業協同組合女性部 部長	
15	平松 立子	岡崎市ぬかた商工会 会長	(欠席)
16	広瀬 輝美	岡崎栄養士会 監事	
17	村山 憲	岡崎市医師会 会長	
18	山田 悠莉	岡崎女子短期大学 講師	
19	山本 和子	岡崎市公立保育園園長会 会長	
20	肆矢 和子	市民公募	
21	和田 昭	岡崎歯科医師会 会長	
22	寺田 雄司	岡崎市副市長	
23	高橋 淳	岡崎市教育長	
24	平松 隆	岡崎市市民生活部長	
25	木俣 弘仁	岡崎市文化芸術部長	
26	加藤 芳郎	岡崎市福祉部長	(欠席)
27	清水 康則	岡崎市こども部長	(欠席)
28	加藤 保彦	岡崎市環境部長	(欠席)
29	金森 隆	岡崎市経済振興部長	(欠席)

【オブザーバー】(福祉部長、こども部長、環境部長が公務により欠席のため、代理出席)

1	川澄 佳充	岡崎市福祉部次長	
2	黒野 義之	岡崎市こども部次長	
3	柴田 耕平	岡崎市環境部環境総務課長	